

## 令和元年度第2回宗像市学校給食審議会議事録

令和2年2月28日(金) 午前9時30分～午前10時37分

宗像市役所 北館 202会議室

出席者:審議会委員 7人

あいさつ

【事務局】おはようございます。開会にあたりまして、まず、私から臨時休校等の学校の対応についてでございます。現在、国・県から正式な対応の通知はあっておりませんが、実際に通知があるのは今日の昼過ぎを想定しておりますが、昨日、市長から、国の要請に基づき春休みまで市立学校全校を臨時休校するとの発言がございました。市教育委員会で決定次第、学校はもとより保護者の方にもお知らせする予定でございますので、恐縮ですが、今しばらく、時間をいただければということでございます。以上です。

【事務局】それでは、ただいまから令和元年度第2回宗像市学校給食審議会を開催いたします。会を始める前に本日の資料の確認をいたします。事前に資料をお送りしていましたが、皆様お手元にお持ちでしょうか。今回の議事録署名人についてですが、今回も名簿順でお願いしたいと思います。議事録が出来上がりましたらご連絡いたしますので、よろしくをお願いします。それではこれ以降の議事進行につきましては、会長にお願いしたいと思います。

【会長】おはようございます。このように、小中の校長は休校の対応で本日欠席しており、7名の委員に出席していただいております。審議会規則第5条第2項の規定により本日の会議は成立しておりますので、欠席をされた方の分までたくさんご意見を出していただければと思います。先程、課長からお話がありましたが、学校では、おそらく来週から休校だろうということで、課題をどうするかについて担任に指示しておりますし、休校の間の過ごし方についてのお手紙であったり、連絡の方法であったりですね、そういったことを指示しております。間に合わないかもしれませんが、来週にかけていろいろな配布物を取りに来ていただくなど、そのような形になるのかなと思いつつ、対応策を考えているところです。それでは第1回の給食審議会の振り返りも含めてパワーポイントを使って説明していただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

【事務局】おはようございます。今年度の審議会は、学校と家庭における食育について、委員の皆様にご意見いただきたく進めさせていただいております。こちらは第1回の審議会のご意見になりますが、日頃の食生活や食育、学校給食についてなど、たくさんのご意見をいただきました。

今年度、食育についてこの審議会に取り上げようと考えた理由ですが、まず、国の食育計画や、学校での食育の手引「食に関する指導の手引」の見直しが行われたため、私達も改めて食について振り返ってみたいということが一つありました。もう一つ、食を取り巻

く環境はとても速いスピードで変わってきているということを感じていたので、この機会に委員の皆様にご意見をいただきながら考えていきたいという想いがありました。

前は、年号が変わったこともあったため、食を取り巻く環境が大きく変わっていることについて、「平成の食のまとめ」として振り返っていただきました。事務局では「見目が重視されている。」「毎日食べるのはきついね。」など話していたのですが、ほかに私が思ったのは、平成の間でインターネット、中でもスマートフォンが普及したので、食にもかなり影響しているだろうということです。

また、前は若い男性職員も参加し、日頃の食生活について話してもらったところ、「ついついお惣菜を買うことが多くて。」と彼は言っていました。平成の時代は外食やお惣菜を買うことなどが珍しくなく、抵抗なくしている人が多くなったように感じています。

そして、「食育」と言われ始めて10数年、最近、「食育ってこんなにいいことがありますよ」ということを国が示してくれています。その中の子どもに関するところで「共食でこんないいこと」ですが、朝食と夕食を家族と一緒に食べることが、子どもの心や体にもよい影響があるということが示されています。続いて「朝食」について、PTAでも「早寝早起き朝ごはん」運動が進められていますが、中学生では学力やストレス、早く寝るなどの生活習慣にも、朝ご飯を食べることがよい影響を与えているということが示されています。「食育体験でこんないいこと」ですが、体験活動をすることは、食べものの命の大切さや食べものを捨てることはもったいないということを考えるきっかけになることが示されています。

その中で、宗像市の子どもの食の現状はどうか、市健康課が食育計画の見直しを行っていますので、そのデータを紹介します。宗像市の子どもは、一人で食べる子が小学校5年生の朝食については5年前より増えてしまっているのですが、ほかには家族と一緒に食べる子が増えている傾向にあります。ただ、朝食を「ほとんど毎日食べる」という子が小学生も中学生も減ってきています。これは宗像市だけではなく、全国的に朝食を毎日食べないという子が増えてきているので、宗像市も同じような状況にあるのかなと思います。

宗像の郷土料理と行事食については、学校の授業や給食時間の放送などで紹介があると思うのですが、知っている子どもが増えてきています。

地元の野菜や水産物を使うかについては、子どもたちが「自分の家庭で使っているかどうかを知っているか」ということなのですが、小学生では減っていましたが、中学生では増えている状態です。

【会長】平成を中心に食育の振り返りがありました。食育の効果、食べることやそのタイミング、そういうところでいいことがたくさんあること、それから、宗像市の調査についても現状を示していただいております。朝食を「ほとんど毎日食べる」子が少し下がっているのですが、僕の記憶で言うと、以前、朝ごはんの調査がありました。その時は、ご家庭でも意識され、朝起きて作っていただいて数値が高まったという記憶があるのですが、最近調査がなくなっているのも、また下がっているのかなと思いました。そういった現状

もありますし、プレゼンの資料をご覧になって気付かれた点、今、話題になっていることでも構いませんので、いろいろな意見を出していただければと思います。ご家庭で食べものについて話題になっていることやママ友さんとの話でも構わないので、何かありませんか。

【委員】我が家のことなのですが、中学 3 年生の子どもがいて、受験前で、ほとんど毎日塾に行っている状態です。夕食が一人だけ遅くなって、私も用意をして、一応横にいて食べるのを見ているのですが、やはり早く食べ終わって片付けをしたい、早く食べてほしい。話を聞くだけで、余裕を持ってみんなで会話するという時間がなかなか少ないです。朝も同じく、子どもに準備の声かけをしながら「早く食べて、早く学校に行って、仕事だから早くして。」ということが多くて、みんなでテーブルについてはいるのですが、楽しく朝食を食べさせてあげたいけど、それがなかなかできていないというのが現状です。

【会長】うちもみんなバラバラですね。大きくなっているので、食べたいタイミングで食べています。

【委員】「早寝早起き朝ごはん」の集計をしていて、学年が上がっていく毎に朝食抜きで学校に来る子が少しずつ増えているなど毎回感じます。また、アンケートに「食べさせてはいるけれど、朝は手作りする余裕がないので、パン 1 個でも置いていく。」というようなことが書かれており、簡単な食事をとらせている方が多いというのを感じます。自分もそうなのですが、手を加えたものを食べさせてあげられたらいいのですが、なかなかそうはいかないということが皆さんの意見にも多く挙がっています。

【会長】期間としては、調査は 1 年間ですか。

【委員】年に 2 回しています。

【会長】期間を設けて。

【委員】はい、1 週間毎で。

【委員】うちは 5 年生、2 年生、幼稚園といるのですが、パンがメインの朝ご飯を用意しているときは、長男はすごく食べるのですが、次男は「給食をおかわりしたいから。」ということで一口ぐらいだけ食べて行ってしまう。でも、ご飯でお茶漬けや鮭の切り身を置いているときは、次男と三男は全部食べて、長男は「ちょっと魚は…ちょっと急ぐから。」と言って出ていく。朝ご飯は、テーブルを囲んで食べるのは子どもたちだけで、親はせかせか準備をして忘れ物がないかを再度確認するので一緒に付いては食べないのですが、偏食がすごくて。用意しているけど食べないか、学校で残してしまうのが嫌だと言って、午前中に体育がないときは「比較的少なめでいいから。」と、自分で調整しているみたいです。次男に至っては「ヨーグルトだけ食べて行っていいですか。」というような。「何か食べて行きなさい。」とは言うので、何か食べようとする中で、ヨーグルトはどうなのかなと思いつつ、食べて行っている現状です。

【会長】子どもなりに考えることがあるんでしょうね。

【委員】子どもなりにすごく調整しながら食べているのかなと。でも「残すともったいな

いでしょ。」と、親としては言わないといけないので難しいなと思いながら。

【会長】パン好きのお子さんにご飯好きのおさんがいらっしゃるようですが、毎回用意されているんですか。

【委員】そうなんです。だいたいバラバラで、パンが続くときもあるのですが、寝坊することもあるので。ご飯のときは注いでおいて、お茶漬けだったらサラッと食べて行けるかなと思って少しは準備をしています。でも、ビュッフェではないので別々にしてあげようという考えはなくて、そこはどうかと苦戦中です。

【委員】私は息子が3人いるのですが、次男と三男は歳が7つ離れていて、末っ子が一人っ子のような子育てです。年齢差があるので、3番目の息子と揃って食事というのは土日も難しく、3番目はすぐお腹がすくんです。食事の回数が多く、夕方はおやつ代わりにご飯を1杯食べて、夜もまたお兄ちゃんたちと一緒に食べるということなどがあり、体も大きくなってしまい、病院に行く度に肥満や体重のことでいろいろ言われることが多いです。一人で食べさせることの弊害があったかなということを感じていて、時間的に余裕はないけれど、家族で食卓を囲むことが大事だったなど、過ぎた過去を振り返って反省しているところです。母親は朝ご飯を食べられないことが多いですか。早起きしても子どもの準備をしていると時間がなくて、何も食べずに家を出るとか。自分が食べていないということが多々あって、人の準備で終わってしまうので、そういうところも働く保護者が多くなっている現代としては問題かなと。ちゃんとしている人は朝ご飯を食べて家を出るんでしょうけど、私はなかなかそこまでいなくて。社会全体の環境として、みんなで食べるのも難しいし、子どもだけで食卓につかせると、選り好んで好きなものだけを食べて出かけてしまうということになっていると感じます。

【会長】一人で食べることによる弊害と言われたのですが、偏食なども入ってくるんですか。

【委員】そうですね。基本的に母親は子どもが食べないものを出さなくなり、好きなものを作って出してしまうので、給食は本当にありがたいです。なおかつ、食べてくれるのが嬉しくて食べさせていたら食べ過ぎるようになってしまい、今度は抑えられなくなって量の調整ができなくなるということがうちの末っ子の場合があるので、きちんと分量を注ぎ分けて、それを残さずにちゃんと食べるというような食育を小さい頃から意識付けておけばよかったと。そうしていれば、現状は変わっていただろうなと感じています。

【委員】うちは一人っ子なのですが、食べるのが好きで、好き嫌いが無いという、そういう意味では親としては助かっています。朝ご飯はちゃんと出すようにしていますが、特に手作りのものというわけではなく、買って来た唐揚げとかコロケとかを上手に使って、おにぎりなどを作れば食べてくれるので、手作りにこだわることはないなと思って毎日食べさせるようにはしています。一人っ子なので、自分が食べなくても必ず私も一緒にいるようにしているのですが、時間がないということを利用してテレビを見ながら食べるんです。平日は時間がないのもわかるような気がして、ついつい小さい頃からテレビを見な

がら食べることを認めてきてしまったところがありますが、休みの日に「テレビを見ながら食べるのはやめて。」と言っても、子どもが強くなってくると「時間がないから。」と。私がいるのに夕食もテレビを見ながら食べるということになっています。「今日、どんなことがあったの。」と聞いても「ちょっと、今、いいところだから。」と会話にならなこともあります。本人はテレビが楽しいんでしょうけど、失敗したなあ、どうしたらいいかなと思っています。

【会長】「家族揃って食事を。」という意見もありましたが、それがテレビにとって変わられたら本末転倒とですね。ありがとうございます。

【委員】5 ページのグラフ「宗像市の子どもの現状」ですが、「認知度」が「宗像の郷土料理」、「行事食」と上がっていますよね。これは学校給食の成果ですかね。

【事務局】それもあるかなと思いますが、この期間に数校ですが 5 年生の総合的な学習の時間に郷土料理をテーマに子どもたちが調べたりすることが始まっているので、それ影響が大きいように思います。

【委員】学校給食では取り上げていないんですか？

【事務局】学校給食でも取り上げてはいます。

【委員】どれくらいの学校でやっていますか？

【事務局】郷土料理はどの学校でも取り上げていて、平成 25 年時点でもメニューには入れて指導の資料もつけてはいたので。

【委員】献立の中にも入れて。

【事務局】そうですね。

【委員】総合的な学習の時間というのは全ての学校でやっているわけではないですね。

【事務局】そうですね。今、把握しているのは小学校 4 校かなと思います。

【委員】いえ、この給食審議会ですので、学校給食の成果かなと。確認をしておきたいなと思ひまして。

【委員】でも、それは、私はすごく思います。親は日々の忙しさに忘れていますが、献立表を見ると、必ずその月の行事食を給食に入れていただいています。うちは女の子がいないのでひな祭りも完全にスルーですが菱餅を出してくださっていますし、そういうことで子どもたちには意識付けがされているんだろうなど。郷土料理に関しても、献立表に明記してあったり詳しく紹介されていたりするのを目にしますので、本当に学校給食はありがたいなと保護者として日々思っています。ありがとうございます。

【会長】郷土料理で「だぶ」や「鶏すき」などが出ますが、ご家庭でも作ったことありますか。

【委員】おばあちゃんが作ってくれたかな。「だぶ」はまだ食べたことがないので、未経験です。わからない。角切りにして、ですよ。でも正解なのかどうなのか。「鶏すき」はよくします。

【会長】そうですね。でも「鶏すき」なんていうのは福岡の郷土料理でしょう。

【一同】そうですね。宗像の郷土料理ですね。

【委員】でも京都でも食べられますよ。いい料亭で出たりします。品がいいです。

【会長】他にありませんか。家庭に関することが多かったですが、取り巻く職場であるとか、友達の間でこれが気になるとか、あるいはこれはいいとか、そういったことでも構わないのですが、何かございますか。

【委員】うちはまだ幼稚園児がいるのですが、通っている幼稚園は、園長先生に「朝ご飯は食べてきて欲しい。」という想いがある、「おにぎり 1 個持たせてくれたら園で食べさせるよ。」という園です。なので、小学生の子どもは、部活動ではないですが習い事で遅くなって夜ご飯が遅いと、必然的に朝ご飯は空腹ではないのであんまり食欲がなく、「おにぎり持って行っていい？」みたいなことを言うので、「学校はだめでしょう。」と。歩きながら食べてもやっぱり行儀が悪いので、「だめやろう。」とは言うのですが。学校にちょっと早く来た子には「食べていいよ。」というのがあれば、もっとみんな朝ご飯を食べるのかなと。おにぎり一つでも頭の働きが違うというのも聞くので。なかなか難しいでしょうけど。

【会長】車で送ってもらっている子が車の中で食べているのはありますけどね。

【委員】習い事などで遅くなることがあるので、全体的に早寝は難しい時代なのかなとは思います。

【会長】食事っていうのは、睡眠や運動と関係してきますよね。どうでしょう。もう一つの資料があるみたいですので。

【事務局】では、引き続き資料の説明をします。先程、食育を見直すきっかけの一つとして説明したのですが、「食に関する指導の手引」の改訂版が文部科学省から昨年3月に発行されました。この中に「子どもに望ましい食習慣を身に付けさせることは次の親への教育でもあります。」ということが書かれていて、こんなことが書かれたのは初めてだったので印象的だなと感じています。また、食に関する指導を学校で進める際に6つの「食育の視点」に整理して実施するというのも新たに示されています。

先程も郷土料理の学習の話が少し出ましたが、現在、実際に学校で行われている食育についてです。「家ではあまり時間がなくて。」というご発言もありましたが、学校ではこういった郷土料理の学習をする際、地域の方や食進会の方を呼んで子どもたちと一緒に調理実習などを行っています。こちらは豆腐作りですが、実際に学校給食に豆腐を納めてくださっている豆腐屋さんに来ていただいて子どもたちに豆腐の作り方を教えていただくなど、そういうことが学校で実施されています。

こちらは、前回、中学校の校長先生にご紹介いただいた家庭科での食育です。学校のホームページを見たら宗像の魚を使った料理のレシピが多く載っており、しかもしっかり書いたレシピで、中学生はここまでできるんだなと私も感心しました。

次に、毎日行われている給食の時間での取り組みの一つで、こちらは給食週間に納入業者の方を呼んで一緒に給食を食べている様子ですが、これ以外にも学校全体での活動前に縦割りで給食を食べるなど、学校では上手に給食の時間を活用されています。また、栄養

教諭の先生が作られた「食育だより」がご家庭に届くことがあると思いますが、日々の生活の中に取り入れていただきたいこと、知っておいていただきたいことなどが書かれています。

そして、食育について、これからどういうことができるかなということを考えていただきたいのですが、今、求められていることとして、SDG s は聞かれたことがありますか。最近、一気に広まったなという印象ですが、国連が2030年までの目標として示しています。なかなか難しいなと思うのですが、食に関することでSDG s に基づいて何ができるのかなと。いろいろところで取り組まれています、企業ではかなり進んでいます。例えば、食品ロスに関することでは、以前は恵方巻がたくさん捨てられていることがニュースになっていましたが、最近は予約制になっています。また、食品の包装材やストローを紙製にし、できるだけプラスチック製のものをゴミとして出さないなどが取り組まれています。また、餌の問題に取り組んでいる企業もあります。こういう視点でも、これからできることは何か、ご意見をいただければと思います。

あともう一つ、Society 5.0 は聞かれたことがありますか。私も最近知ったのですが、今が Society 4.0 で、インターネット、スマートフォンや SNS などが開発されていますが、私達が子どもの頃に、こんなに便利にいろいろなことが検索できるなんて予測できなかったなと思います。Society 5.0 では AI が生活の中に入ってくるなど、想像がつかないような時代のようなのですが、近い未来にやってくるのかなと思います。今の子どもたちは、そんな未来を生きて、支える世代にもなるんだと思います。そのような時代を生きる子どもたちに身に付けてもらいたいこと、大人ができることについて、委員の皆さん一人一人でお考えは違うと思うので、ぜひ、それぞれご意見をいただければと思います。

【会長】ありがとうございます。後半は学校で行っている実際の食育についてご説明いただきました。郷土料理については本校でも実施していますが、食進会という地域の方を中心に来ていただいて一緒に献立を作ったり、料理を作ったりして郷土料理の学習をしています。

最後はSDG s、あるいは今後来るであろう社会ということで視野が広がっていくのですが、忘れてならないのは、この会は給食審議会ですので、給食の中でどういうことが具現化できるのか、給食の担う役割はなんだろうかというような視点で見いただければと思います。ここからは想像の世界になるかもしれませんが、実際に思われていることでも構いませんので、ご意見いただけたらなと思います。一巡しましたので、一人1回か2回は発言いただくと助かります。

【委員】学校ごとの食育についてですが、うちの子たちが通っている学校は児童生徒数がほかの学校より多く、何回も食進会の方を招くなどがなかなか難しいとは思いますが、小学校では3年生で味噌作りをしていて、ほかの学年が畑で大根などを作っているみたいで、自分たちが作った味噌と、ほかの学年が育てた野菜をいただいてお味噌汁を作って食べるという授業があります。それはすごく楽しみにしていて、ありがたいなと思っています。

す。もちろん食進会の方々を招いてというのもあったと思います。

エコとか新たな社会に向けてということと学校給食を結びつけて考えると、自分たちが今できるエコとしては、給食をできるだけ残さないように、みんなできれいに食べるとか。中学校でやっていることで、「このクラスでは何々が足りません。もっと食べたいので余っていませんか。」と給食委員が回るらしいんですよ。こぼしちゃったとかも時々あるみたいですが、生徒が自分たちで「余ってないですか。いらなくなったらください。」「休みが出て、余っているのでいりませんか。」など同じ学年に呼びかけをして。給食委員会の子が自主的にしていると聞きました。感染とか衛生面ではどうなのかなとも思うのですが、自分たちで考えてできることをやっているんだなと思っています。以上です。

【委員】うちの子は上が5年生で下が1年生なのですが、下の子は昨日親子レクで予定していたバター作りが中止になってしまい、ものすごく悲しがっていました。小さくても作ることにとても興味があり、夏休みにメイトムで行われる料理教室やコミセンではピザ作りなどの募集があったので、積極的に参加するようにはしているのですが、学年や年齢に制限があり低学年だとできないというのがあって、やりたい気持ちを抑えてしまうときもありました。いろいろな危険もあるかと思いますが、食育に興味がある時期で、お母さんの真似をしたいとか、自分でやってみたいという想いが小さければ小さいほどあると思うので、参加できるようなイベントがもっと多かったらいいなと思います。

【会長】お家では料理の手伝いとかは。

【委員】はい、させています。少々危険なこともあるかもしれませんが、命を落とすようなことではないと思うので、させるようにはしたいと思っています。心の余裕のあるときに。

【会長】マイ包丁を買ってあげると、もっと意欲が上がりますね。

【委員】うちの子は、小さい時はマイ包丁を買ってあげて一生懸命お手伝いをしたり、おにぎりをフリフリして一緒に作ったりしていましたが、年齢が上がるにつれて「もうお手伝いをしない。」と言うようになってしまいました。だから、小学校で地元の農家さんの指導のもとに学校の畑でピーマンを作ったり、きゅうりを作ったり、そういう経験がすごくよかったなと思っています。

食品ロスに関しては、気をつけているのは買い過ぎないということです。スーパーで安売りをしていてついつい買っちゃうと、結局それで冷蔵庫がいっぱいになってしまう。忘れて捨てるということがありもったいないので、自分が管理できるものしか買わない、使う予定がないものを買わないなど、安売りに惑わされないように自分でしています。うちの子の学校はすごく残食率が低くて、みんなきれいに給食を食べてよかったのですが、もし残食率が高い学校があるとしたら、作る量を減らすとか工夫があってもいいのかなと思います。以上です。

【事務局】作る量について申し上げれば、学校給食では小学校、中学校でそれぞれ一食あたりに必要な栄養価と量が決められています。それに基づいて小学校は一食 250 円、中学



校は 310 円の学校給食費を納めていただいています。ですから、量を減らす選択は食品ロスをなくそうという意味では有効ですけれども、学校給食を実施する側からすれば、その分の量と栄養バランスがとれたものを提供することが大切だということになります。学校給食は準備から食べ終わりまでの時間が限られているため、残食量が非常に少ない学校においては、とにかく早く準備をする、食べる時間をできるだけ多くとるなどの工夫がされています。また、ご紹介いただいたように、給食当番の子どもたちが、残食が出ないように上手に配膳するなど、さまざまな工夫をしています。

【委員】わかりました。

【会長】ほかにご意見はありませんか。

【委員】学校ごとの食育で、3年生で豆腐作りをして、4年生では近所の農家の方に田んぼを借りてお米作りを教えてもらい、自分たちで作って育てて収穫したお米を使って「お米パーティー」という形で親子で食す、という行事をずっと行って行っていました。しかし、豆腐作りに関しては O-157 が流行ったくらいになくなり、お米作りも農家の方が高齢になって「もうできない。」と言われて、それ以降なくなってしまう、現状なくなっちゃったんですね。上の子どもたちのときにはあったのに、末っ子の代ではできないことがすごく寂しいと思うし、食育の大切さも子どもに伝えたいと思うので、食進会の方にもお力を貸していただけるというヒントをいただいたので、その力を借りて復活させていけたらいいと思います。PTA の親子レクで以前やっていたので、何かの機会にしたいなと思いました。また、買いすぎには注意しようと思います。

【委員】郷土料理の学習ですが、この 3 種類のうち、うちの子は大豆を使っている料理を作ったみたいです。それこそ、食進会の方から 1 人前で片手位の量の食材を「自宅でお母さんお父さんたちに食べさせなさい。」というような感じで持って帰ってきたのですが、家でも作ってくれて「こんなの作ったよ。」と言っていました。

長男はマイ包丁を持っていて、リンゴの皮むきの授業があるということで、「リンゴの皮むきを 1 番になりたい。」と言って、リンゴを 5 個 6 個買って「毎日リンゴパーティだね。」と、昨日までそんな経験をしていました。食品ロスじゃないですけど、今、リンゴの消費について「何の料理にしようかなあ。」と考えています。あと、プラスチックのストローはどこでも見かけなくなってきたので、エコなのかなあと感じています。割り箸も極力使わないように、マイ箸を持ち歩いています。やっている最中です。

【会長】持ち帰った郷土料理はなんですか。

【委員】大豆のぎすけ煮です。ノウサバの子はノウサバの材料を持って帰ったみたいで、うちの子はその大豆を何もせずにバリバリ食べて、「作ってくれるんじゃないの。」と言ったら「これだけでもおいしいよ。」と言って次男三男にも配って回っていました。ほんの少しの量しかなかったのですが、してくれていました。

【委員】資料の 6 ページに「食に関する指導の手引」があり、「食育の視点」というのがございしますが、これは今回「これを給食の、食に関する指導の中で指導をしましょう。」とい

う視点で示されたわけです。ということは、「6つの内容を小学校中学校で指導するように。」ということなのですが、学校で指導ができる時間は、学級活動と家庭科、保健体育、小学校で言ったら体育の保健領域です。家庭科、保健は知識技能で、その教科の目標があるので教科書がありますが、学級活動の場合は学校で工夫して授業ができます。ところが、1年生から6年生まで1学年でこの6つの内容を実施することは不可能です。授業で食に関する指導をするのは、1年生でも1時間から2時間しかない。そう考えたら、宗像市は強みがあって、小中一貫教育をやっていますから、9ヵ年で指導をするのであれば、1年間で1回か2回はできるのだから、小学校と中学校の校区で6つの視点に応じた食の指導計画を作っていけばいいんじゃないかなと思うのです。そうしないと、イベントだけで終わってしまうと身につけませんので、子どもたちはさせてもらうだけです。これからの子どもたちにどんな力をつけたいのかというと、自分で自分の食習慣をよくしていく、そういう主体的な子どもを育てていかないといけないので、できるだけ授業の中で計画的にやっていく、それも系統的にということ。例えば、小学校1年生で「好き嫌いをしない。」という学習をしたのに、中学校に行っても「好き嫌いをしない。」という授業をしているというのは、あまり成長してないということになります。それは、先生方が工夫して指導計画を作っていく必要があると思います。保護者の方も、社会に開かれた教育課程と言われているので、いくらでも保護者が学校に行かれてもいいと思うので、「食育の指導計画がどうなっていますか。」「小学校から中学校へ子どもたちが上がっていくんですが、その連携はどうなっていますか。」そういう鋭いツッコミが欲しいなど。校長先生は嫌だろうけど。保護者の方のそういう視点が、宗像の学校給食に関する授業を変えていくのかなということを理解いただければと思います。そして、時々イベントを使われると効果的なのかなと。学校と家庭が一緒になって食育をしていく。例えば「お母さん、買い過ぎに注意よ。」と子どもが書いた標語が冷蔵庫に貼ってある。その標語は食品ロスにつながる授業をした子どもがお母さんに手紙を書く、そういう授業がこれからの学校給食にあったらいいのかなと思いますね。

あと、残食が多いことについて栄養大学の先生が研究をされていて、人間関係がいい、楽しい学級、楽しい学校の残食は少ないそうです。ただ食べるだけじゃなく、食べる環境ができていくか。今、私の所の院生が研究をしていて、その学校は非常に荒れており、その時の残食率が町内の学校のどこよりも高かったのが12月になって減ってきたそうです。というのは、子どもたちが落ち着いてきており、学校の状態と残食が関係しているということ。どこが多いか聞いてみたらいいと思います。よからぬことを言いましたが。

【会長】ありがとうございました。専門的な知見が非常に高いので、もし、今、気になられたことがあればお願いします。

先程の教育の視点の中で、感謝の心や社会性というのがありますが、3学期は給食感謝週間が学校であると思います。調理員さんや栄養士さんに感謝の気持ちを伝えているのですが、ここでは食料の生産等に関わる人についても挙がっています。

また、社会性の中では人間関係形成能力を身につけさせる。最後に Society5.0 というの

がありましたが、これからの社会というのはAIやロボットが入ってきて、より人のつながりが大事になるかなという気がします。給食が担う役割としては、いろんな人とのつながりを感じながら食べる。生産者だったり作ってくれる人だったり、みんなが学級で楽しく一緒に食べるなどして、つながることの楽しさを感じるというのが、給食の目指していくところじゃないかなという気がします。

最後に一言ありましたらと思いますが。

【委員】昨日3月2日から学校に行けないかもしれないというニュースを受けて、うちの子3人でいろいろ話しをしていて、突然キッチンにやってくると、みんなで今月と来月の給食の献立表を見始めて、「私、この給食食べたかった。」「これ中学校になったらおいしいよ、小学校は出らんけどね。」など、小学生も卒業ではないけど、「6年生のリクエスト給食が好きだったから食べたかったのに、もう食べられんのかな。」と、すごく給食を恋しがっていました。今日、私が給食審議会に出席することを子どもたちに話したら、「もう中3で給食を食べる機会がないから、小学校と中学校9年間給食をみんなで楽しく食べられました、ありがとうございますって言うておいて。」と言われたので、「伝えておくね。」と話しました。1番上の子は好き嫌いがなくて、みんなで食べるのが好きなので、「給食食べたかった。」と1時間くらい話していました。

【会長】ありがとうございます。お別れ給食ではないですけど、いいメニューが出ますもんね。うちの学校でも質を変えて、最後はサイロステーキを出そうかと企んでいたんですけどね。

他に何かありますか。それではまとめといいますか、最後に会長の想いも言っていていいよとの事でしたので、先程の残食について、私も思っていることがあります。いつだったか、堺市の先生が余ったパンと牛乳を持ち帰って窃盗罪に問われました。行為自体は悪いとは思いますが、毎回10人から30人分の残食が出ていたという実態があって、やむに已まれずそのような行動に移ったのではないかなという見方もできるんじゃないかなと思います。今、給食は工夫されていて、美味しくなっています。また、食べる量も低学年から高学年まで少しずつ増やすとか、いろいろ考えられて食品ロスをなくすように努力されています。学校ではそれは引き続きやっていきたいと思えますし、ご家庭でもそういう意識をもたせながら、あるいは最初の方に出てきた一家団欒でテレビを抜きにして、会話ができるような機会を作っていくとか、食事のあり方についても大事にしていっていただきたい、給食が少しでもその啓発の役割を担っていけたらなと思っています。まとめにはならないんですが、貴重な意見をいただきましたので、来年度の審議会の課題としてですね、受け取っていききたいと思います。こんなところでよろしいでしょうか。

【事務局】たくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございました。今日のお話を聞きながら、私も保育園に通っている子どもがいるんですが、手伝いなど基本的なところから少しずつさせていくことが本当に大事ななと改めて思いました。

今年度の審議会で食育をテーマに協議を進めていくにあたり、事務局で話をしていたと

きも、時代は変わっていくけれども、子どもたちにとって食の重要性だったり、食の役割だったり是不変じゃないか。そういうところを、もう一度、皆さんに確認ではないですけども、どう思われているのかご意見を伺いたいと思っていたのですが、思っていた以上にたくさんのご意見をいただいたので、来年度につなげていきたいと思っています。ありがとうございました。

【事務局】会長はじめ委員の皆様、お疲れ様でした。また、第1回、第2回の審議会を通して、皆様方からさまざまなご意見をいただきまして、ありがとうございました。担当も申しましたけれども、今年度は若い世代、20代30代の食生活に関する課題が国の調査で浮き彫りになったことから、少なくとも、宗像市の小学校、中学校、義務教育学校に通う子どもたちには、正しい食生活、また、食に関する知識を早いうちから身に付けてもらいたいという思いがあり、食育をテーマに皆様方からご意見をいただくこととしました。

今後、社会がどのように変化していくかわかりませんが、食べるということは「生きる力」と結びついており、子どもとしましては、それを身に付けることが子どもたちにとって大事なことだと考えています。来年度以降、学園、学校ごとの食育に関する全体計画が今よりも実行しやすいものにするなど見直しを行い、9年間を通して子どもたちが着実に「生きる力」を身に付けていけるような取り組みを進めていきたいと考えております。

ただ、委員の皆様の任期の兼ね合いもございまして、来年度の審議会につきましては新たな委員の方で開催することとなります。今後の食育の取り組みにつきましては、学校給食が生きた食育の教材ということもあり、引き続き審議会でもテーマとして取り上げてまいります。その取り組みについては、できれば情報発信も行っていきたいと思っておりますので、今後ともご注目いただき、また、これまでと同様にご理解ご協力をお願い申し上げます。令和元年度第2回宗像市学校給食審議会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。